

2019年度 特定非営利活動法人UNE 事業報告書

【本年度の事業実績 総括】

特定非営利活動法人UNEの活動 8 年目の年、障がい者のしごと起し、高齢者の生甲斐づくり、生活保護者の居場所づくりを通して地域(一之貝及び荷頃地区)の活性化を図ることを目的に各種補助金、助成金事業を活用し以下の事業を実施した。

昨年度末に認定NPOに新潟県(所管課:県民生活課)より、認証して貰い寄附行為件数の増加を期待していたが、PRの不足、昨今の経済状況などを反映してか、企業などからの寄附はなかった。しかしながら、地元の方々からは様々な形で募金、協力をいただいた。



北荷頃、一之貝、軽井沢のポスター

なお、実績報告に関しては、定款に記載している下記 13 事業を順番に報告した。

1. 地域活動支援センターの運営事業
2. 農業生産・加工事業及び販売
3. 農業サービス事業
4. 障害者の仕事となりうる各種請負事業
5. 農村と都市との交流事業
6. 地域活性化事業
7. 農村からの情報発信事業
8. 農産品特産品の料理提供で障害者就労を創出する飲食事業
9. 送迎事業
10. 障害者の仕事となりうる各種人材派遣事業
11. 農家民宿事業
12. どぶろくの製造及び販売
13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業



7 月 12 日 磯田市長を囲んで

【事業実績】

※以下【 】の数字は平成 30 年度の実績です。

1. 地域活動支援センターの運営事業(長岡市補助事業)

① 障がい者

月曜から金曜までの週 5 日、一之貝と千秋が原信濃川河川敷を活動場所として農作業を中心とした活動をした。

2019 年度「地域活動支援センターUNEHAUS」の障がい者の利用者総数は、1,957 人日【1,930 人日】、開所日数は 236 日【238 日】で、1 日の平均利用者数は 8.3 人【8.1 人】であった。その他新規の登録者は 4 名であった。

② 高齢者のたまり場

給食事業では近所の高齢者はじめ栃尾市街地から、そして高齢者団体等が見学を兼ねて訪問され延べ人数は 1,259 人【1,003 人日】であった。

③ 生活保護受給者

6 年間実施している生活保護者のボランティア活動の一環で

2019 年度は 5 名の受入れを実施、週 4 回UNEの活動を手伝って貰うべく、長岡駅東口から送迎しUNEHAUSに集う障がい者、高齢者と共に働き活動した。障がい者や高齢者に対しては、作業の指導や送迎時の運転など、職員同様の役割を担ってくれた。

④ 市民ボランティア

UNEHAUSで活動した有償ボランティア(障がい者、生活保護受給者、高齢者は総数 12 人)の延べ参加日数・人数は 870 人日【1,004 人日】あった。



高齢者との花見見物



ふるさとの森 ベンチ補修作業

2. 農業生産・加工事業及び販売(共同募金助成金を活用)

☆平成 25 年 2 月 28 日 NPO 法人で県内初の認定農業者となる。

① 田んぼ(一之貝地区)

田植直後の少雨で水不足、分結不十分に陥る。7 月～8 月の異常高温下で平場の田んぼは品質低下が大きな問題となったが、山間部で平均気温が低いことが幸いし、大きな打撃とはならなかった。

昨年度の凶作で販売先が縮小したため、昨年度に比べ豊作であったが、販売に苦勞し、年度末に JA 越後ながおかに供出(36 俵)した。

販売方法、販売先の確保について再検討しなければならない。

✚ コシヒカリエコ-55 の栽培(105a) 去年の倍の収量を得る。高温下でも心白は少なかった。収量 4,440kg、74 俵

✚ 亀の尾の栽培(12a) ※どぶろくの原料用米、収穫適期から遅れ、倒伏し品質低下した。収量 420kg

✚ 大正餅栽培(33a)新たに 25a の水田を借用し増産を計画。収量 510kg

✚ 従来コシヒカリ栽培(14a)※食味コンテスト用、有機栽培を目指すも、夏季雑草に負ける。ハザ掛けをする。収量 150kg

✚ 農林 22 号(10a)※どぶろくの原料用米、収量 330kg

食味検査への出展・・・長岡のコンテストに出品したコシヒカリエコ 55 は、選別精度が劣ったため入賞目前の 21 位、従来コシヒカリは、乾燥不足のため 2 次審査に進出することが出来ず 50 位となったが、乾燥さえしっかりしていれば入賞(20 位以内)の可能性があったとの一審査員からのコメントを貰った。

✚ クロモジ畑の管理:耕作放棄地を活用したクロモジの栽培(4 年目)



米コンテストの出展米

②畑(千秋地区及び一之貝地区)

☆平成 28 年 3 月 千秋が原:河川敷の使用許可＝河川協力団体に認定

- ✚ 2019 年春に開園した福祉市民体験農園『Oasis R』は、参加募集をしっかりとらなかったために本年度の利用者の確保が出来ず僅か2名であった。
- ✚ 4 月と 7 月に一般の参加者も含めて種まき、収穫体験イベントをおこなった。
- ✚ 10 月 22 日の台風 19 号の大雨の被害により信濃川が観測史上最大の水量となり、畑が約 10m の深さで水につかってしまい、秋、冬野菜は全滅してしまった。被害額は推定 40 万円の損害であった。
- ✚ 2020 年度は『福祉・市民 体験農園』としての本格的な取り組みを開始したい。



『福祉・市民 体験農園』

③ヨモギ

新潟県の提案で 4a よもぎを栽培、8 月下旬に収穫し乾燥、破碎、そして 9 月中旬に薬用酒メーカーに全量出荷(200kg)しそれなりの成果を収め、JA 越後ながおかの座談会や新聞などで紹介された。

それを受け、9 月下旬に稲刈りを終えた田んぼ 2 枚、及び千秋が原河川敷の畑、計約 34a 苗を新規に植付けた。

米に代わる作物として有望であるが、引取先の数量が限定されているので現時点ではこれ以上の規模拡大は望めないが、引取先を開拓すれば耕作放棄された田んぼに栽培することが可能であると思う。



よもぎ畑 背丈を超えた！

③ 花ハス

新潟県そして JA 越後ながおかの提案で、これまでどろんこ運動会の会場として利用してきた堂田地区の田んぼ 3a に花ハス苗を植え、花ハス栽培を試験的に開始した。8 月のお盆時期から 8 月末までに 300 本程の花が収穫出来、関係者に贈る。9 月末に蓮台 200 本程収穫しビニールハウス内で 2 週間ほど乾燥、その後 100 本ほど販売出来た。

通常、JA 越後ながおかの集荷場に早朝出荷、そこで荷が纏められその後東京の大田花木市場に出荷されるが、早朝の収穫、出荷作業には対応が難しいので、蓮台の栽培、花を観光資源として活用する方向で今後検討したい。



8 月 2 日の花蓮田

④ 加 工

☆平成 24 年 11 月 加工場営業許可取得

✚ くろもじ

平成 30 年 3 月より販売を開始したピローミスト、フローラルウォーターも含め、くろもじ製品の重点的な製造、販売を行った。新たな販売先として「栃尾道の駅」、セレクトショップ「わがんせ」「たつまき堂」、アロマショップの「カモミール」等、その他原材料として「ナジラータ」にくろもじの葉、ジェラートの「雪鹿」にカットした枝の提供を始めた。

熊本大学薬学部の和田先生からくろもじの葉と枝の注文 6kg が有り、くろもじの葉に中性脂肪を抑制する効果が

見られそうだとの話があった。その他、くろもじを与えたラットの状態が落ち着いている事も研究材料として可能性があるとの話を伺った。搾油を行った後の残渣については染め物の染液としての価値が有りそうなので、来年度販売できるよう準備を行った。新潟駅南口のイベントスペースで開催されたお茶フェス 2019 に参加しくろもじ茶のアピールを行うと同時に同業他社との横の繋がりも生まれる中で、それらの紹介で千葉のアロマショップと付き合いが始まった。

製造に関して、搾油は納谷と倉茂で担当、お茶は倉茂と継男さんと納谷で終礼を毎日行う中で翌日の作業やその後の段取りを話し、コミュニケーションと作業の効率化を図った。課題としては現場担当者の出勤が不安定な事や作業所内のクリーンネスが有る。その他、素材の在庫の仕方の改善等行い経費の削減に努めた。

梅干し

昨年の仕込み 160kgから今年は 300kgの仕込みに増やした。採取する現場班と仕込む加工班の仕事の調整を行い、無理無駄を抑制した結果、採取した梅の廃棄が起こらなかった。

仕込み時の重しが甘く、100kg程度カビを発生させてしまい廃棄してしまったが、干す作業については大型の干網で効率化した。

使用する赤紫蘇は千秋の畑と一之貝の畑で自家栽培を行った。

10m×30cm程度の畝を一之貝で2畝、千秋で2畝作付けしたが300kg仕込むには2割程度足りなかった。又、梅を入れ込む時期が遅くなって

しまい、干す作業が滞ってしまった。紫蘇を投入する時期はまだ紫蘇が十分発育していないので、作付け自体は2倍程度に増やす必要があるそう。

担当者(ボランティア)の出勤が不安定で、仕込みや仕上げ等の情報の共有化が課題として残った。

その他

例年製造している笹団子、神楽南蛮味噌については売り先が無く競合他社も多い為今期はほとんど製造しなかった。又、昨年作成したおかず味噌も現場の体制が整わず今年度は着手できなかった。

⑤ 販売・イベント

□中沢直売所

売上と作業量とのバランスから根本的な見直しが必要とのことで2019年度は開所しなかった。

野菜を作った近隣農家が直接ウネにもって来た分についてはUNEHAUSで販売した。

□JA越後ながおか「なじら〜て美沢店」への出品

梅干しを10月より販売。その他山菜も若干販売した。大正餅については不具合の都合上販売は行わなかった。

□各イベントへの参加

アオーレ(山菜マルシェ、酒の陣、ドイツフェスト、市民活動フェスタ、オーガニックフェスタ)千秋が原ふるさとの森クラフトフェア、立川競輪感謝祭、新潟駅南口でのお茶フェス、各イベント参加



昔しながらの梅干し製造



ドイツフェストでの出店

□どぶろくの販売

道の駅 R290 は一もに一及び各種会合への引き出物として販売。販売先が先細りする中で新たな開拓が必要だが、市場の規模を含め中々難しい。又、既存の酒販店からも注文が入らなくなっている。理由は様々あるかと思うが、小売店からは飲食店等への払い出しが難しい事も理由として上げられた。

2019年2月に受賞した全国どぶろく研究大会準優勝の効果は半年ほど続いた。

⑥ 米

2019年度はウネのHP、ノウカズ、メルカリで販売を行ったが対外的な販売は少なかった。ノウカズ、メルカリについてはほとんど注文が入らなかった。

長岡のセレクトショップ「たつまき堂」と協働した販売の検討を始めた。2020年度以降の作付けや栽培の仕方も含め検討し高付加価値な米作りが必要な事が分かり、それらを取り組み課題としたい。

昨年度一年間休んでいたノウカズというお米販売のサイトへの登録を行ったがほとんど注文が入ってこなかった。2020年度以降は登録を解除し、新規の販売サイトを検討したい。

⑦ 大正餅

大正餅の販売を昨年度の260袋から792袋へ拡充した。主な売り先は新潟直送計画とふるさと納税返礼品、ぽんしゅ館で計画し、全て完売したが商品自体に不具合が発生し、ぽんしゅ館とふるさと納税返礼品からクレームがきた。ぽんしゅ館からは100袋の返品が有りそのまま残ってしまった。2020年度には餅付きの委託先変更を行う。

ぽんしゅ館から大正餅を使った濡れおかきの企画を頂き、今年度は3袋の試作を行った。2019年度でのお付き合いはできなかったが、試作の結果が良ければ年間で50俵の受注が見込める。

⑧ 新規取り扱い店舗への働きかけ

小千谷市の動物病院、新潟市の「道の駅ふるさと村」、新潟市のハーブティー販売店、首都圏の販売店等へ営業を行ったが、具体的な成果にはつながらなかった。

⑨ ふるさと納税返礼品、新潟直送計画を活用した Web 販売の拡充。

令和元年度から長岡市のふるさと納税返礼品にどぶろく、くろもじ茶、ピローミスト、宿泊、餅の詰め合わせが採用され、返礼品については餅詰め合わせが一番多く74件あった。

その他、昨年度来進めている新潟直送計画へも出品を継続し餅については贈答用で54件の受注があった。

3. 農業サービス事業

✚ 笹は他の事業と重なり採取することが出来ず出荷しなかった。

✚ クロモジはなかなか晴天の日がなく、晴れた日に集中して参加できる人全員で頑張ったが薬用メーカーへの集荷目標の3トンに対し1.6トンにとどまった。

✚ 新規のお客からお問い合わせがあり、薬用メーカー出荷後、追加で400キロを販売した。



クロモジの出荷調整

4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業

☆地域に根ざした請負作業:雪下ろし、農作業の手伝い、草刈り

- ✚ 雪下ろしは少雪であったため請負はなかった。除雪ロータリーの稼働日数も僅か4日であった。
- ✚ 千秋が原:公園管理の手伝(ペンキ塗り)4日間、26人/日、2020年度は請け負わない予定。
- ✚ アパートの清掃及び修理、荷物の片付け(家老ビル)等
- ✚ 道路除草や剪定補助などの造園業請負、計37日間、123人/日の作業を行った。(万松園)
- ✚ 新潟空港脇自衛隊官舎の草刈り1回(ハイハイネット)
- ✚ 一之貝集落で今年度より取組んでいる多面的機能支払い交付金による水路の江浚い、農道の草刈りなどの作業に参加した。

5. 農村と都市との交流事業

✚ 各種イベントの開催

信濃川河川敷遊び塾、各種クウカイの開催を行った。参加者を集める事が難しく、長年同じようなイベントを行っている為少しマンネリ化している感じがする。2020年度以降はイベントの洗い直しと趣旨等の見直しが必要に思う。

✚ くらもじを切り口とした交流事業

くらもじを切り口として、山にくらもじを採りに行ってくらもじ茶を作る体験教室を自主事業として4回、他業者が主催する形で2回行った。地域資源を活用した交流事業としてだけでなく、くらもじを通して荷頃地区を発信するよい事業であるため大切に育てたい。

✚ 視察研修、フォーラム参加

7月に長野県、11月に関西へ農福連携の視察研修を行った。12月には東京で日本財団主催の就労支援

フォーラムに若手の職員が参加し、そこで行われたナイトセッションで事業説明を行った。

✚ 学生インターン生受入

今年で2年目となる立命館大学の学生のインターン生を8月に2名1組、9月に7名1組受け入れた。一之貝に来訪してウネで活動する事で地域の事や農の事、それらの課題を肌感覚で感じてもらえた事は非常に収穫だった。今回来訪したインターン生は2020年冬も来訪予定。インターン生を受け入れるという段階を終え、次年度以降は次のステップに進めるよう検討したい。



くらもじ体験教室



インターン生による水路管理

6. 地域活性化事業

①協議会事業

- ✚ 平成 28 年度 5 月 31 日より活動を開始した「北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会」の事務局を令和元年度も担当した。
- ✚ 協議会事業として農林水産省の農山漁村振興交付金事業の農福連携推進事業を活用し、千秋の畑や一之貝の田畑での農福連携事業を進めた。主には、佐野職員がアグリジョブトレーナーとして活動できるように育成する費用や、地元農家の技術指導講師代、ボランティアさんの送迎のガソリン代と運転手アルバイト代、事務所経費等に活用した。
- ✚ 一之貝区、北荷頃区のお祭り等の行事に参加した。
- ✚ 地区区長会の開催会場として UNEHAUS を利用して貰ったり、地区の防犯交通運動、公民館活動等の事業に参加した。
- ✚ 一之貝での共同草刈り、道路普請、水路の江浚、北荷頃の排雪溝掃除、両地区の愛村デーなどにも積極的に参加した。
- ✚ 新潟市で立ち上げされた「農福連携推進連絡会議」へオブザーバーとして参加した。
- ✚ 一之貝中山間地組合との連携・地域活性化を推進、田植え祭り、稲刈り祭りなどに参加した。



北荷頃 夏祭り

②資源回収

一之貝、軽井沢、北荷頃それぞれ奇数月 5 回(1 月の降雪月を除く)ずつ実施し、特に高齢者や体の不自由な人たちから喜ばれた。長岡市及び回収業者からもらう奨励金の合計は 24 万円で 2019 年度より約 3 万円減少した。

中国の景気が減速したため鉄くず資源物の価格が暴落し、加えて長岡市からの奨励金の単価が 5 円から 3 円に 4 割も減額される(2020 年 7 月より)ため、資源回業者も紙類以外は回収出来ないとの意向なので、2020 年度 5 月の実施で本事業は中止する予定。



資源回収の分別

7. 農村からの情報発信事業

①視察研修受け入れ、講演等

- ・5 月 長岡市さいわいプラザにて地域まなびコーディネーター研修会での講演
一之貝担い手センターにて地域の歴史家を招いての認定 NPO 記念講演会「荷頃の歴史」開催
- ・6 月 長岡市役所の若手職員と長岡での研修中の国家公務員の研修
受入れ、アオーレ長岡でのドイツワインセミナーでの通訳兼講師、高崎市市民協視察研修受入れ
- ・7 月 磯田長岡市長来訪受入れ
新潟市総合福祉会館にて新潟県社会福祉士会・生活・更生保護・児童家庭支援班の研修会での講演
ドイツリーア市からの訪問団受入れと曹源寺へのアテンド、コーディネート
- ・8 月 三条市下田地区の下田塾、「6 次産業化と農福連携」研修受入
- ・9 月 埼玉の埼玉福興代表の新井様を招いての農福連携研修開催
- ・10 月 上越市 就労支援ネットワークの農福連携研修受入れ

新潟県社会福祉士会視察受入れ

上越市牧地区農林業振興公社のよもぎ事業視察受入れ

- ・11月 新潟駅南口でのお茶フェスに参加、一之貝とクロモジ製品のアピールを行った。立命館大学草津キャンパスでインターン生の打合せとインターン生有志へ講座を行った。

岐阜県郡上市でのどぶろく全国研究大会へ参加、どぶろく雪中壺乃界のアピールを行った。

- ・12月 日本財団主催の就労フォーラムに参加し、ナイトセッションでウネのアピールを行った。

三条市下田で活動中の地域おこし協力隊の視察を受け入れた。

- ・1月 立命館大学草津キャンパスからインターン生4名が一之貝に来訪し活動した。

- ・2月 三重県の前川先生を招き、アオーレ長岡とUNEHAUSで農福連携ジョブトレーナーの研修会を行った。

- ・3月 よもぎの販売先である上越のミヤトウ、地元の取りまとめのJA、新潟県地域振興局がUNEHAUSに来訪し、昨年来栽培しているヨモギの勉強会を行った。

②広報

新潟日報、とちおタイムス、日本農業新聞、障がい者と雇用 働く広場、デユポラ(過疎対策情報誌)、JA 越後ながおかの月刊誌「e-na イーナ」、BSN ラジオ「ご機嫌アワー」、FM ポート等で報道される。

③広報誌等の発行

「北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会」の広報誌「きたいちかる」から発行をUNEに戻し、「うね日和」として発行。月刊発行部数 900 部にUNEのイベントや活動を紹介する記事を掲載した。新たに栃尾の道の駅でも設置してもらう事ができた。

UNEのHP、Facebookにてイベント、日々の出来事などを随時発信した。

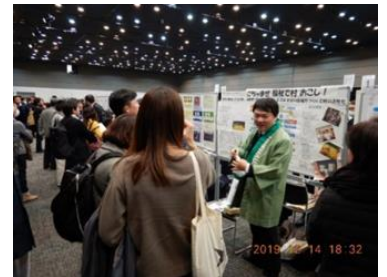
8. 農産品特産品の料理提供で障がい者就労を創出する飲食事業

☆平成25年3月 飲食業の営業認可取得

- ✚ 1日平均食数は約18食 4,130食【4,220/年】。開業日数は227日【237日】であった。
- ✚ 給食に訪れた方は、1,259人 その内、一之貝の住人は延411人で3分の1、一之貝以外の市内の方は659人で約半分であった。
- ✚ 交流人口を増加させるために積極的な広報宣伝活動:地域・長岡市街からも集客を行った。来客者数(4,220食の内、スタッフを除いた数)の総数は1,197人で全体の28%、その内訳は村内31%【31%】、村外の市内53%【50%】、県内112%【9%】、そして県外1%【9%】であった。海外からは37人来訪された。
- ✚ 調理員は一之貝から2人、北荷頃から2人の計4人の方が週2回~3回を目途に給食作りに来て貰っている。
- ✚ 給食事業は、毎週平日月~金、12:15~12:45実施した。



立命館大学草津キャンパスでの講演



ナイトセッションでアピール



BSN ラジオ ごきげんアワー出演

9. 送迎事業

☆日常のボランティアの長岡駅～一之貝間の送迎、買い物送迎(毎月 第 2、第 4 木曜日午後)、通院送迎(随時)、温泉送迎等を通じ地域の高齢者の見守り、生活支援等を実施した。

- ✚ 買い物送迎人数 年間 5 名【14 名】(原信美沢店、川崎店他)
- ✚ 通院送迎人数 登録者数 年間 112 名【76 名】(荒井医院、中央病院、日赤病院他)
- ✚ 温泉送迎人数 年間 12 名【27 名】(おいらこの湯)

なお、令和元年 9 月をもってバス路線北荷頃～軽井沢間が廃止されたので、益々送迎サービスの需要は高まることが予想される。

10. 障がい者の仕事となりうる各種人材派遣事業

農山漁村振興交付金事業で立ち上がった北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局をUNEの事務所内に昨年同様併設すると同時に、代表理事が協議会の事務局長を兼任した。

その他協議会が実施するイベントにUNEの市民ボランティア(障がい者、高齢者、生活保護受給者)を派遣した。

11. 農家民宿事業

☆平成 28 年 11 月 UNEHAUS簡易宿所営業許可取得

☆平成 30 年 6 月 KS☆HAUS民泊営業許可取得

- ✚ 簡易宿所として UNEHAUS、民泊施設としてKS☆HAUSを運営、宿泊利用客及び稼働日数は、UNEHAUS 109 人 33 日、KS☆HAUS 69 人 15 日 合計 178 人、48 日であった。
- ✚ 昨年度に引き続き、Airbnb と楽天トラベルに掲載した。何か近隣でイベント等がある時に宿泊予約が入る他、ゴールデンウィークやお盆期間等はそれなりに稼働したが、その他の時期の稼働が少なく課題として残った。来訪動機となるような仕掛けの創出が必須。
- ✚ KS☆HAUS への外国人の宿泊は前年よりも少なかったが、新たに新潟大学の栃尾ボランティアチームが栃尾まつりの際に利用してくれたので、毎年の利用が期待できそう。
- ✚ UNEHAUS への宿泊については人員の確保が不安定という課題が上がった。素泊りについてはセキュリティの関係も有り中止し、2 食付きのプランのみで営業を行うようにした。夕食と朝食のメニューも夕食は栃尾のおぼろ豆腐、油揚げを中心に、朝食は卵かけごはんをメインにしながら負荷のかからない形に変更しお客様の満足感の向上も行えた。現場担当者の負担は軽減されたが、担当する人員の確保が難しく、価格と価値のバランスが悪いように感じるので、2020 年度以降価格の見直しを行い、担当者へのリターンを明確にしたい。
- ✚ 楽天の民泊サイトに掲載したが、集客にはつながっていない。
- ✚ 一之貝の古民家の活用を新規事業として計画を開始したが草案までには至らなかった。同古民家を障がい者のグループホームとして活用する案も検討したが、延床面積が大き過ぎて大がかりな施設改良が必要なため方向性が定まらぬままになってしまった。



壹九零八邸からの眺望

- ✚ 1月末からのコロナウイルス禍でKS☆HAUSへの宿泊 3グループのキャンセルがあった。今後1年くらい宿泊客は望めないのではと懸念している。
- ✚ 夏の猛暑の時期はエアコンが必須であったが、各施設のエアコンが老朽化していて使用できなかった。2020年度最低2台のエアコンの入替が必要かと思うがコロナウイルスの影響で宿泊客が望めない現状では厳しい。



ネパールからのお客さん

12. どぶろくの製造及び販売

☆平成 27 年 6 月 酒類販売許可取得

☆平成 27 年 10 月 その他の醸造酒製造許可取得

☆平成 29 年 3 月 酒類ネット販売許可取得

- ✚ 令和元年度4月から11月までの出荷量は402Lで昨年同期の264Lを大きく上回り、52%の増
- ✚ 金額ベースでは1本2,000円として1,116,000円であり、昨年同期は732,000円だった。
- ✚ 第14回全国どぶろく研究大会が11月に岐阜県郡上市で開催されたが、残念ながらUNEも含め新潟県からどこも入賞する事ができなかった。
- ✚ どぶろくの製造販売に関する調査研究(新潟県醸造試験場、新潟県どぶろく研究会)に参加した。
- ✚ 津南町のグリーンピアで開催されたどぶろく大博覧会に参加した。



岐阜県郡上でのどぶろく全国大会

13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業 特になし

14. 管理関係

☆平成 31 年 3 月 長岡市内初 認定NPO認証

- ✚ 不必要な残業などをさせない、年休の適性取得等を年度当初の目標に掲げ労務管理を徹底して行い、当初の目標値は達成した。
- ✚ 平成 30 年度より新会計ソフト MA1(ソリマチ会計)を導入すると共に損保ジャパンの助成金を受け、スバル会計事務所より会計コンサルタントをしてもらい、会計事務の簡易迅速化が図られた。

以上